

# 新・ 埼玉大学学術情報発信システム ( SUCRA ) の構築について(案)

埼玉大学図書館

村田 輝 ( MURATA, Teru)

大場 秀穂(OHBA, Hideho)

# 新・ 埼玉大学学術情報発信システム ( SUCRA )

市民・産業界・官公庁／研究者・学生

Google・Yahoo

埼玉大学研究者総覧  
Researcher Directory  
(SUCRA-RD)

- 埼玉大学研究者の研究成果・研究活動を広く公開
- システム構築は研究・情報担当理事と図書館長の共同プロジェクト

XML Database

研究者情報

フルテキスト

フルテキスト

Web of Scienceへのリンクバック

埼玉大学機関リポジトリ  
Institutional Repository  
(SUCRA-IR)

埼玉大学研究者の研究  
成果（フルテキスト）  
を収録・無料で提供

Web of Science  
へのリンクバック

フルテキスト

開発中

フルテキスト

スポット購入

電子ジャーナル:  
Electronic Journals  
Nature/Science/Elsevier/  
Wiley/Springer/etc.

Web of Science

- トムソンサイエンティフィック社が提供する学術文献データベース
- 世界の主要大学が利用

# 新・ 埼玉大学学術情報発信システム (SUCRA) 構築の目的

- ◆ 新・ SUCRAを構築し、学内の学術情報環境を整備すると共に本学の研究者の研究成果・ 研究活動等を広く国内外に発信する。
  - 具体的には、「新・ 研究者総覧 (SUCRA-RD)」と「機関リポジトリ (SUCRA-IR)」の2つを柱とし、それに「電子ジャーナル」と「Web of Science」とを加えて相互に連携させたシステムを構築する。
  - SUCRA-IRは図書館が構築し、本学の研究者の研究成果を広く国内外に発信するという当初の目的を十分に果たしている。
  - 電子ジャーナル、Web of Scienceは図書館が導入済み。
  
- ◆ 新・ 研究者総覧 (SUCRA-RD)は、研究者自身が自身の情報をコントロール、安心・ 安全にデータを一元管理、様々な調査・ 科研費申請等に活用できるようにし、研究者の負担軽減を図る。

※図書館による研究業績の代行登録でさらに負担軽減

# SUCRA構築のメリット

## ◆ 研究者と大学の視認性の向上

- ・ 欧米の研究者の視認性は日本の研究者の3倍、各大学でResearcher Directoryを整備。
- ・ 日本でも各大学が研究者総覧を整備、全国版研究者総覧である研究開発支援総合ディレクトリ ( ReaD)はJST ( 科学技術振興機構 ( 文部科学省所管 ) ) が運営。
- ・ 研究者総覧と機関リポジトリとの相互連携は世界的課題に。

## ◆ 研究者の利便性の向上と負担軽減

人件費換算で埼玉大学として年間2,800万円の負担軽減

( 400万円(新システム) - 3,200万円(現システム) )

各種調査等に係る研究者の負担を金額換算で試算すると、

- 現システム；現・研究者総覧データ更新、科研費申請、ReaD調査、評価  
3,200万円/年 = 800万円[4,000円 ( 教員1人当たり時間給与 ) ×4h×500人]×4回
- 新システム；新・研究者総覧データ更新  
400万円/年 ( 800万円/年の半額：データ更新の負担は現システムの半分以下 )

## ◆ LOW COST

新・研究者総覧システムの価格は ( 高パフォーマンス・高ポテンシャルになり ) 現システムの半額程度。

# 研究者と大学の視認性の向上

- ◆研究者総覧と機関リポジトリとの相互連携により芋づる式に研究成果をアピール可能に。
- ◆自身の研究成果やアピールポイントを一番よく知っている研究者が、自身の公開情報を自由にデザイン。
- ◆上記により研究者と大学の視認性は最大化へ。

# 研究者の利便性の向上と負担軽減

自宅や研究室でデータ更新



暗号化通信

海外出張先でデータ更新



## 新・研究者総覧システム Researcher Directory (SUCRA-RD)

- ・EXCELシート 1ファイルで簡単にデータ管理
- ・登録情報・公開情報を研究者自身がコントロール、結果として全研究者情報を入力可能・一元管理
- ・全学認証システムと通信の暗号化でセキュアにデータ更新
- ・ReaD調査・科研費申請書・教員個人調書など多様な出力サービス、研究者の負担軽減
- ・WEBへの反映も短時間(10分程度／一般のシステムは夜間バッチで翌朝)
- ・図書館が研究業績の著作権調査・代行登録、研究者の負担軽減

全学認証システム

多様な出力サービス

ReaD調査

科研費申請書

教員個人調書

⋮

# LOW COST

## ◆ XML技術の採用

項目追加の度に高額な改修費が必要なRDBビジネスモデルからの決別

## ◆ 画面数の削減

システム開発経費は一般的に画面数換算

## ◆ ポータルレス

図書館で大学の研究業績ポータル構築不要

## ◆ 低価格

( 以下、非公開 )

# SUCRA構築担当

- ◆システム構築は研究・情報担当理事と図書館長の共同プロジェクト
- ◆プロジェクトの事務は研究協力部（構築：図書情報課・情報基盤課、運用：図書情報課）において行う。

# 現・研究者総覧システムの問題点

- ◆教員全員が入っていない。  
395名（教員現員数467名）
- ◆データが更新されていない。
- ◆英語ページがない。
- ◆兼担（大学院・センターなどの兼務）が表示されない。
- ◆Google検索で埼大研究者は1ページ目に上がってこない。
- ◆現システムはRDBなので高コスト体質、機関リポジトリとの連携のための改造困難。
- ◆既に導入から7年目、崩壊寸前。

キーワード

→ 詳細検索

▶ 検索

▼ クリックすると所属する研究者を表示します。

## 学部

[教養学部](#)[教育学部](#)[経済学部](#)[理学部](#)[工学部](#)

## 大学院

[文化科学研究科](#)[教育学研究科](#)[東京学芸大学大学院連合学校  
教育学研究科](#)[経済科学研究科](#)[理工学研究科](#)

## 機構・センター

[英語教育開発センター](#)[情報教育センター](#)[基礎教育センター](#)[アドミッションセンター](#)[学生支援センター](#)[保健センター](#)[科学分析支援センター](#)[地域共同研究センター](#)[情報メディア基盤センター](#)[教育・研究等評価センター](#)[国際交流センター](#)[地圏科学研究センター  
\(共同研究施設\)](#)